

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成30年8月)

～現状判断はインバウンドの回復などがプラス材料に～

- 景気ウォッチャー調査・8月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月ぶりに上昇、先行き判断も2か月ぶりの上昇となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、平成30年7月豪雨や8月に上陸した台風(12号、20号等)などの雨による影響、さらには連日の猛暑による影響で、客足の減少をうったえる声が多様な業種で上がっている。ただし、6月の地震、7月の豪雨などで落ち込んでいたインバウンドが、8月に入って戻ってきたことなどが好感され、DI自体はやや上向いている。
- 猛暑による景気への影響については、客足の減少は目立つものの、飲料関係の販売が大きく伸びるなど、スーパーやコンビニなど、業種によってはプラスに作用している。また、月後半からは気温もやや落ち着いてきたことで、秋物商材がよく動いているとの声も上がっている。
- 先行きについては、残暑による影響や、これまでの野菜の不作が価格の高騰につながるといった懸念はあるものの、豪雨や災害による影響が徐々に落ち着くことへの期待や、インバウンドの増加トレンドの継続などがプラス材料となり、やや上向くという判断となっている。
- ただし、8月調査の直後に台風21号が上陸し、関空の浸水被害をはじめとして、各地で風雨による大きな被害が出た。当然ながら8月調査の先行き判断には、これらの影響は含まれていない。さらに北海道でも大規模な地震が発生し、甚大な被害が出ていることから、9月調査の結果が待たれる。

「大阪北部地震」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	変わらない	百貨店(特選品担当)	・8月に入り、大阪北部地震や平成30年7月豪雨の影響で減少したインバウンド客が戻ってきた。特に、高級ブランドや化粧品のインバウンド売上が、日次ベースでも過去最高水準をキープしている。ただし、婦人服のボリュームゾーンを中心に、来客数、購買金額共にまだ厳しい状況が続いている。
		都市型ホテル(スタッフ)	・6月の大阪北部地震により客室の3分の1が被災し、改修には半年以上掛かるため、客室収入と食堂の朝食利用が大幅に減少している。客室の減少で、団体客の獲得や価格のコントロールが困難で、通常時よりも稼働率、単価共に悪化している。一方、宴会が非常に好調で、収入は大幅に伸びている。ただし、大型の研修団体が複数獲得できたため、景気の改善とは異なる。
		旅行代理店(店長)	・来客数が少なくても販売は落ちていない。目的があって来店する客は、事前に予約を入れ、単価も低くはない。特に海外旅行の状況が良く、大阪北部地震などで景気が良いわけではないが、旅行に行く人は行っている。
		タクシー運転手	・大阪北部地震の保険調査によりタクシーの予約が殺到した動きも終わり、夏の暑さも峠を越えたため、少し利用率に陰りがみられる。
やや悪くなっている	や	一般小売店[精肉](管理担当)	・夏の商戦が終わろうとしているが、6月の大阪北部地震から始まり、平成30年7月豪雨、8月の台風、そして高い気温がずっと続いている。特に、平成30年7月豪雨はお中元の最盛期と重なり、配送機能が混乱するなど、かなりの影響が出た。食生活にもこの高い気温は影響があるほか、外食や路面店にも悪影響がある。野菜価格の高騰なども含めると、景気にも大きく影響している可能性がある。
		百貨店(売場主任)	・今月は目標達成の見込みである。インバウンドが好調なほか、気温の影響もあり、婦人洋品を中心としたシーズン雑貨が好調である。ただし、インバウンドの動きは大阪北部地震以降、鈍化しており、国内客の売上も減少傾向にある。全てのアイテムが好調ではなく、客のモノに対する購買意欲は決して高くない。

家計関連	やや悪くなっている	乗用車販売店（営業担当）	・例年8月は休暇やレジャーの月で、閑散期となっている。大阪北部地震や平成30年7月豪雨の影響は落ち着いてきているものの、販売、メンテナンス共に低調である。
		都市型ホテル（管理担当）	・大阪北部地震のあとの平成30年7月豪雨や台風、連日の猛暑のせい、昼夕のレストランの客足が鈍い。
		旅行代理店（営業担当）	・大阪北部地震、平成30年7月豪雨に続き、猛暑による来店数の減少や、台風によるキャンセルが続いている。
雇用関連	やや良くなっている	職業安定所（職員）	・大阪北部地震や平成30年7月豪雨、猛暑による新規求人の減少を懸念していたが、直近の新規求人の増加幅は例月並みとなり、大きな影響はみられなかった。近畿の有効求人倍率も季節調整値で1.60倍と、平成以降の最高を更新し、約44年ぶりの高い水準となっている。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設関連の日雇求人は、夏休みに伴う学校関連の補修工事や、大阪北部地震、平成30年7月豪雨の復旧工事の影響を受け、前年同月と比較すると増加傾向となっている。ただし、熱中症対策や酷暑による体調管理のため、毎日の就労が難しく、人手不足の状況は強まっている。

「豪雨、台風」関連のコメント（現状判断）

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（企画担当）	・台風20号の上陸により、営業時間を短縮せざるを得なかったが、今月の売上は前年比で約5%の増加となった。月初は客単価の低下で売上の伸びが鈍化していた外国人売上も、月末の1週間は来客数、客単価共に回復し、店全体の売上増加につながっている。月後半の動きから、景気は好転していると感じている。	
		百貨店（営業担当）	・富裕層を中心とした、特選ブランドなどの高額品の動きは引き続き好調である。また、化粧品を中心としたインバウンドの動きも順調となっている。さらに、台風による悪影響はあるものの、これまで伸び悩んでいた、ボリュームゾーンの衣類や雑貨などのファッション関連が、レディース、メンズ共に好調に推移している。	
		コンビニ（経営者）	・7月に続き、酷暑と豪雨の両方に今月も見舞われた。余り出歩かないようにするためか、まとめ買いが多くみられ、1回当たりの平均単価も上がっている。	
		観光型旅館（団体役員）	・全般的には、海水浴客を中心とした来訪客は多かった。ただし、夏の繁忙期に2度の台風によるキャンセルや、数か所の施設の損壊も起きている。	
	変わらない	百貨店（売場主任）	・今月は大雨や台風の影響で、営業時間の短縮を行った結果、販売量が減少している。決して景気に左右されたわけではない。	
		百貨店（販促担当）	・今月は、中旬まで暑さによって夏物商材が好調に推移し、前年を上回っている。ただし、中旬以降は気温が少し下がるとともに、夏物の需要が落ち着いたほか、台風の直撃や天候不良もあって前年を下回っている。秋物商材の動き出しは、まだ残暑が厳しい日も多いことから厳しく、やや苦戦している。化粧品やスタミナ関連など、夏の疲れをケアする商品による需要の喚起が必要である。	
		百貨店（商品担当）	・暑さや台風などの気象条件が逆風となり、地方、郊外ではばん回しきれない店舗もあるが、都市部の店舗では、季節の食品催事や夏休みの子供向けイベントにより、来客数は順調である。夏物セールとインバウンドが好調な婦人洋品雑貨を中心に、順調な推移となっている。	
		百貨店（販売推進担当）	・前月に続き、猛暑や台風による閉店時間の前倒しの影響があったものの、夏休みの家族向けイベントを複数開催したほか、下旬に向けて好調になってきたインバウンドなどにより、来客数は前年比で10%近くアップしている。	
		百貨店（特選品担当）	・8月に入り、大阪北部地震や平成30年7月豪雨の影響で減少したインバウンド客が戻ってきた。特に、高級ブランドや化粧品のインバウンド売上が、日次ベースでも過去最高水準をキープしている。ただし、婦人服のボリュームゾーンを中心に、来客数、購買金額共にまだ厳しい状況が続いている。	
		スーパー（店長）	・猛暑やお盆、台風などで、必需品的な商品は購入するが、 unnecessaryな商品やプチゼいたく品の購入は控える傾向がみられる。	
		高級レストラン（スタッフ）	・今月も台風や猛暑などの天候不順により、例年の夏休みに比べると、来客数は伸び悩んでいる。	
		その他飲食 [自動販売機（飲料）]（管理担当）	・今年は平成30年7月豪雨の影響で、飲料の在庫がない。	
		観光型ホテル（経営者）	・今夏は猛暑や台風が相次いだことで、マイナスの影響が出ている。	
		観光型旅館（経営者）	・平成30年7月豪雨の影響で予約が遅れ、間際予約で随分追いつけたが、集客が間に合わなかったという状態である。	
		都市型ホテル（管理担当）	・引き続きインバウンドは好調であり、景気自体に大きな変動はないが、一時的な動きとして、今後の台風の被害による影響が懸念される。8月の台風では、大型宴会のキャンセルや、宿泊のキャンセルなどが発生している。	
		都市型ホテル（客室担当）	・連日の猛暑や台風の発生数が多かったことも影響してか、お盆が明けてからの伸びが良くなく、客室単価を下げての販売となった。客室単価は前年比で3.8%低下し、それにより売上も6.6%減という状況である。	
		住宅販売会社（総務担当）	・元々2月と8月は成約が少なく、今年も例年並みとなっている。平成30年7月豪雨や猛暑の影響は余りない。	
		やや悪くなる	一般小売店 [精肉]（管理担当）	・夏の商戦が終わろうとしているが、6月の大阪北部地震から始まり、平成30年7月豪雨、8月の台風、そして高い気温がずっと続いている。特に、平成30年7月豪雨はお中元の最盛期と重なり、配送機能が混乱するなど、かなりの影響が出た。食生活にもこの高い気温は影響があるほか、外食や路面店にも悪影響がある。野菜価格の高騰なども含めると、景気にも大きく影響している可能性がある。
			一般小売店 [菓子]（経営企画担当）	・8月と5月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均で計算してみると、関西は8月が99.5%で、5月が87.9%、関東は8月が97.2%で、5月が113.9%、中部は8月が87.1%で、5月が83.9%、中国は8月が79.0%で、5月が86.4%となり、各地区合計の平均は8月が94.1%で、5月が91.6%となった。一時期と比較すると多少持ち直してきているように見えるが、8月に入ると猛暑と台風の影響で少々伸び悩んでいる。

家計動向関連	やや悪くなっている	百貨店（宣伝担当）	・前月に比べてインバウンドが復調し、売上は前年を上回っているものの、猛暑や台風の影響で入店数が6%減っている。雑貨や特選品、宝飾関連は堅調であるが、暑さの影響で秋物商材の動きが鈍く、婦人服や紳士服が苦戦している。
		百貨店（外商担当）	・台風の影響で閉店時間が繰り上げられ、来客数が減少した。また、8月下旬になっても気温の高い状況が続き、秋物衣料も低調な推移となっている。
		百貨店（マネージャー）	・集中豪雨や頻繁な台風の上陸など、気象条件が悪いため、販売機会が減少し、やや悪くなっている。
		スーパー（店員）	・猛暑と台風の影響で野菜の値段が一気に上がり、下がることがない。
		コンビニ（経営者）	・台風や水害による交通機関の混乱があり、朝の客が前年比で30%減少している。
		乗用車販売店（営業担当）	・例年8月は休暇やレジャーの月で、閑散期となっている。大阪北部地震や平成30年7月豪雨の影響は落ち着いてきているものの、販売、メンテナンス共に低調である。
		都市型ホテル（管理担当）	・大阪北部地震のあとの平成30年7月豪雨や台風、連日の猛暑のせい、昼のレストランの客足が鈍い。
		旅行代理店（役員）	・過去には、酷暑を理由とした旅行の中止は皆無であったが、今月は多発した。豪雨や台風は仕方がないとしても、酷暑は想定外である。
		旅行代理店（営業担当）	・大阪北部地震、平成30年7月豪雨に続き、猛暑による来店数の減少や、台風によるキャンセルが続いている。
		観光型ホテル（経営者）	・7月に続き、8月も天候の影響を大きく受けた。猛暑が続いたことにより、残り温泉地に足が向かなくなった上に、台風によるキャンセルも重なっている。
企業関連	変わらない	食料品製造業（従業員）	・長期のお盆休みや台風20号の上陸もあったが、余り影響はなく、若干であるが出荷は増えている。
		経営コンサルタント	・相変わらずエンドユーザーの消費は手堅いため、小売業は現状維持が精一杯である。一方、建設業、製造業は好調を維持している。特に、建設業は平成30年7月豪雨による災害での特需があり、受注価格が上がっている。ユーザー側からすればどんどん値段が高くなっている。
		食料品製造業（経理担当）	・平成30年7月豪雨による物流の停滞と猛暑続きで、売上が悪化している。
雇用関連	やや良くなっている	職業安定所（職員）	・大阪北部地震や平成30年7月豪雨、猛暑による新規求人への減少を懸念していたが、直近の新規求人の増加幅は例月並みとなり、大きな影響はみられなかった。近畿の有効求人倍率も季節調整値で1.60倍と、平成以降の最高を更新し、約44年ぶりの高い水準となっている。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設関連の日雇求人は、夏休みに伴う学校関連の補修工事や、大阪北部地震、平成30年7月豪雨の復旧工事の影響を受け、前年同月と比較すると増加傾向となっている。ただし、熱中症対策や酷暑による体調管理のため、毎日の就労が難しく、人手不足の状況は強まっている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・前月に比べて求職者数が増えており、求人数も増えている。台風などによる特需もあり、全体的に景気が上向いている。

「猛暑」関連のコメント（現状判断・家計関連）

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	・前月からの猛暑の影響か、月初は高額品の購入も伸び悩んでいたが、お盆が過ぎて、秋物的高額な衣料品が動き出しており、例年以上に好調である。
		百貨店（服飾品担当）	・8月に入り、やや落ち着いた気温に変わったことで、セールや秋物の立ち上がりは順調に推移している。都心店舗、郊外店舗共に、前年を超える売上となった。婦人服関連の売上も好調に推移し、化粧品に関しても前年比で10%以上の増加を維持する形となった。秋物の立ち上がりに合わせて改装を行ったバッグ関連は、輸入品の新商材が好調となる流れが強まり、20~30%増の推移となっている。
		スーパー（経営者）	・相次ぐ自然災害の影響で、農産物の相場の高騰が続いている。また、猛暑により、飲料や熱中症対策商品、アイスクリーム、火を使わないで調理ができる冷凍食品などが前年比で大幅にアップしている。ただし、酒類や菓子、値上がりしたパン類、特に菓子パンやデザート類などが振るわない。必要な物は買うが、し好みなどは買い控える選別志向が目立つ。
		スーパー（企画担当）	・猛暑の影響で、飲料やアイスなどの販売が前年よりも大幅に増え、売上も大きく伸びた。一部の水や機能性飲料などは一時入荷ストップになり、その他の真夏商品も堅調な伸びとなっている。
		コンビニ（経営者）	・7月に続き、酷暑と豪雨の両方に今月も見舞われた。余り出歩かないようにするためか、まとめ買いが多くみられ、1回当たりの平均単価も上がっている。
		その他専門店【ドラッグストア】（店員）	・店の認知度が上がり、来客数は増加している。暑さの影響で、店に涼みに来る客も多い。夏休みやお盆での帰省客や、クーポンの配布を店頭で行ったこともあり、来客数が増加している。
		一般レストラン（店員）	・暑い日が続いたせい、ドリンクやデザートがよく動いた。その分、例月よりも単価が上がっている。
		タクシー運転手	・かなり激しい暑さや、大雨による天候不順、夏休み期間ということもあり、繁華街や道端で、手を挙げてタクシーを止める頻度が増えてきている。
		一般小売店【衣服】（経営者）	・業種を問わず、猛暑で来客数は減少し、前年を10%弱下回っていたが、後半には暑さに慣れたのか、来客数、売上共に戻り始めている。
		一般小売店【時計】（経営者）	・お盆休みがあり、営業日数が少なかった割に売上の落ち込みは少なかったが、来客数は猛暑の影響を大きく受け、それほど多くなかった。必要に迫られて腕時計が少し動いたほか、1件当たりの修理代金が高額であったことが売上を後押しした。状況としては、財布に余裕ができて、物を買いたい、買換えるといった雰囲気とは異なる。
	変わらない	一般小売店【野菜】（店長）	・ゴルフ場や飲食店関係に納品しているが、ゴルフ場は暑さでこの3か月はかなり客が減っており、飲食店も良い状況とはいえない。
		百貨店（販促担当）	・今月は、中旬まで暑さによって夏物商材が好調に推移し、前年を上回っている。ただし、中旬以降は気温が少し下がるとともに、夏物の需要が落ち着いたほか、台風の直撃や天候不良もあって前年を下回っている。秋物商材の動き出しは、まだ残暑が厳しい日も多いことから厳しく、やや苦戦している。化粧品やスタミナ関連など、夏の疲れをケアする商品による需要の喚起が必要である。
		百貨店（商品担当）	・暑さや台風などの気象条件が逆風となり、地方、郊外ではばん回しきれない店舗もあるが、都市部の店舗では、季節の食品催事や夏休みの子供向けイベントにより、来客数は順調である。夏物セールとインバウンドが好調な婦人洋品雑貨を中心に、順調な推移となっている。

家計動向関連

変わらない	百貨店（販売推進担当）	・前月に続き、猛暑や台風による閉店時間の前倒しの影響があったものの、夏休みの家族向けイベントを複数開催したほか、下旬に向けて好調になってきたインバウンドなどにより、来客数は前年比で10%近くアップしている。
	百貨店（営業企画）	・8月は、大雨や酷暑といった7月の気候要因が幾分落ち着いたことで、入店客数は回復している。客単価も上昇しているが、食品以外の売場で改装前の売り尽くしを展開しているためであり、前年との比較が困難である。
	スーパー（店長）	・猛暑やお盆、台風などで、必需品的な商品は購入するが、不必要な商品やプチゼいたく品の購入は控える傾向がみられる。
	スーパー（経理担当）	・猛暑の影響はプラス面だけではないが、全体として売上増に貢献している。
	スーパー（社員）	・今夏の高い気温や災害の影響もあり、生鮮品は価格変動が大きく、商品の供給も安定しないため、客の購買も余り活発ではない。それでもアイスや飲料や冷麺類などは、高い気温に連動して好調に推移しており、全体に堅調な販売状況となっている。
	コンビニ（店長）	・直近の3か月は暑い日が続き、ソフトドリンクや冷たい調理麺などが好調で、売上は安定している。全体としては、たばこの売上が下がり続けているので横ばいである。
	コンビニ（広告担当）	・猛暑や天候要因によるプラス面とマイナス面が出ている。プラス面は大容量の飲料や氷、氷菓の売行き好調で、マイナス面は暑過ぎて来客数が伸び悩んでいることである。
	その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・地域的に高齢者の客が多いため、異常な暑さで外出を控えている。また、若い客は大手スーパーで週末に1週間分の買物をするか、20時以降に買物をする人が多い。商店街はこの状況の中で、19時には全店舗が閉まっている。
	高級レストラン（スタッフ）	・今月も台風や猛暑などの天候不順により、例年の夏休みに比べると、来客数は伸び悩んでいる。
	一般レストラン（経理担当）	・ここしばらくは災害に近い猛暑が続き、客足が伸び悩んでいる。
	観光型ホテル（経営者）	・今夏は猛暑や台風が相次いだことで、マイナスの影響が出ている。
	都市型ホテル（客室担当）	・連日の猛暑や台風の発生数が多かったことも影響してか、お盆が明けてからの伸びが良くなく、客室単価を下げての販売となった。客室単価は前年比で3.8%低下し、それにより売上も6.6%減という状況である。
	タクシー運転手	・大阪北部地震の保険調査によりタクシーの予約が殺到した動きも終わり、夏の暑さも峠を越えたため、少し利用率に陰りがみられる。
	やや悪くなっている	住宅販売会社（総務担当）
その他住宅〔展示場〕（従業員）		・8月は猛暑の影響もあって、住宅展示場の来場数は減少している。
その他住宅〔情報誌〕（編集者）		・猛暑の影響により、消費マインドや購買行動は一部で鈍化の傾向にあるものの、大きな押下げ圧力というほどではない。
一般小売店〔精肉〕（管理担当）		・夏の商戦が終わろうとしているが、6月の大阪北部地震から始まり、平成30年7月豪雨、8月の台風、そして高い気温がずっと続いている。特に、平成30年7月豪雨はお中元の最盛期と重なり、配送機能が混乱するなど、かなりの影響が出た。食生活にもこの高い気温は影響があるほか、外食や路面店にも悪影響がある。野菜価格の高騰なども含めると、景気にも大きく影響している可能性がある。
百貨店（売場主任）		・今月は目標達成の見込みである。インバウンドが好調なほか、気温の影響もあり、婦人洋品を中心としたシーズン雑貨が好調である。ただし、インバウンドの動きは大阪北部地震以降、鈍化しており、国内客の売上も減少傾向にある。全てのアイテムが好調ではなく、客のモノに対する購買意欲は決して高くない。
百貨店（宣伝担当）		・前月に比べてインバウンドが復調し、売上は前年を上回っているものの、猛暑や台風の影響で入店客数が6%減っている。雑貨や特選品、宝飾関連は堅調であるが、暑さの影響で秋物商材の動きが鈍く、婦人服や紳士服が苦戦している。
百貨店（外商担当）		・台風の影響で閉店時間が繰り上げられ、来客数が減少した。また、8月下旬になって気温の高い状況が続き、秋物衣料も低調な推移となっている。
スーパー（店員）		・猛暑と台風の影響で野菜の値段が一気に上がり、下がることがない。
衣料品専門店（店長）		・暑さが厳しく、特に重衣料を扱っている当店は、スーツ関係の動きが非常に悪い。
家電量販店（企画担当）		・猛暑により、これまでは夏物商材の代表であるエアコン、冷蔵庫の販売が好調であったが、その反動で来客数そのものが激減している。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）		・猛暑がいまだに続いているため、飲料や季節商材、衣料洗剤などの動きは良い。一方、暑過ぎて虫の動きが鈍いのか、殺虫剤はほとんど動かず、売れる商品は限られている。
その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）		・残暑の影響で秋物商材の動きが極めて鈍い。原油価格の高騰による電気料金の値上げや、天候不順による野菜の値上がりなどの影響も考えられる。
一般レストラン（経営者）		・暑過ぎて、商店街には人が歩いていないが、近隣の大型ショッピングセンターは人でにぎわっている。
都市型ホテル（管理担当）		・大阪北部地震のあとの平成30年7月豪雨や台風、連日の猛暑のせい、昼のレストランの客足が鈍い。
旅行代理店（役員）	・過去には、酷暑を理由とした旅行の中止は皆無であったが、今月は多発した。豪雨や台風は仕方がないとしても、酷暑は想定外である。	
旅行代理店（営業担当）	・大阪北部地震、平成30年7月豪雨に続き、猛暑による来店数の減少や、台風によるキャンセルが続いている。	
住宅販売会社（従業員）	・猛暑の影響かどうかは分からないが、マンションのモデルルームへの来客が減っている。また、来場しても購入に慎重な客が増えている。	
住宅販売会社（従業員）	・例年7～8月は客足が鈍る上に、猛暑もあって減少傾向となっている。	
悪くなっている	衣料品専門店（経営者）	・今年の7～8月にかけて雨が多く、暑かったため、来客数が極端に少なく、売上が落ちている。
	家電量販店（人事担当）	・盆を過ぎた頃から、来客数が前年を下回っている。猛暑によって季節商材でにぎわった反動から、処分セールにもかかわらず売上が芳しくない。
	一般レストラン（経営者）	・自然災害や酷暑の影響が大きく、来客数は大きく減少している。
	観光型ホテル（経営者）	・7月に続き、8月も天候の影響を大きく受けた。猛暑が続いたことにより、余り温泉地に足が向かなくなった上に、台風によるキャンセルも重なっている。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		16年					17年					18年														
		8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
現状判断	近畿	46.1	45.5	47.1	51.7	53.6	50.3	49.7	48.7	48.4	50.4	51.7	52.2	51.2	51.8	53.3	55.2	56.2	52.4	50.7	50.1	50.1	47.5	48.6	46.7	49.6
	(全国)	46.2	46.3	48.3	50.5	50.7	49.4	48.8	47.9	48.5	49.1	50.0	49.9	50.0	51.1	52.0	54.1	53.9	49.9	48.6	48.9	49.0	47.1	48.1	46.6	48.7
先行き判断	近畿	49.0	49.6	48.6	50.4	49.9	49.8	50.3	49.0	49.7	51.2	51.6	49.7	50.6	49.6	55.6	51.7	49.9	53.4	51.0	52.3	52.1	50.8	52.4	50.8	51.2
	(全国)	48.8	49.4	49.9	50.8	50.4	49.2	50.2	48.5	49.5	50.0	50.5	50.5	51.2	51.1	54.5	53.4	52.7	52.4	51.4	49.6	50.1	49.2	50.0	49.0	51.4